

ジェネリックスキルの獲得に向けた大学教育プログラムの研究

－海外サービスラーニング（カンボジア）における実践から－

The Study of Higher Education Program for the Development of Generic Skill

－Practice of the Overseas Service-Learning－

山 本 秀 樹*

Hideki YAMAMOTO

抄録

大学教育において、ジェネリックスキルを含んだ幅広い力を身に付けさせていくためには、サービスラーニングの手法を取り入れることが有効である。本稿では、本学で実施している海外サービスラーニング（カンボジア）の事例をもとに、事前活動から事後活動までのプログラムと学生による振り返り記録の内容を本学のベンチマークの枠組みに整理することで、ジェネリックスキルの獲得とプログラムの関連性について明らかにすることを目的としている。

Abstract

In higher education, service-learning method is very effective to deepen learning including generic skill. This paper aims to clarify the relationship between the development of generic skill and the program. Based on the practice of the Overseas Service-Learning program held in Cambodia, the contents of a program and the reflection record of students are arranged with regard to the framework of our university's benchmark.

1. 研究目的

中央教育審議会においてとりまとめられた（平成20年12月24日第67回総会）、「学士課程教育の構築に向けて」（答申）では、「各専攻分野を通じて培う学士力～学士課程共通の学習成果に関する参考指針～」として、①知識・理解、②汎用的技能、③態度・志向性、④統合的な学習経験と創造的思考力、の4項目を卒業までに身に付けるべき具体的学士力として示している。

本学（関西国際大学）においても、教育理念¹⁾に基づいた「KUIS 学習ベンチマーク」を定め、①自律できる人間になる（知的な好奇心、自己責任感、自律性）、②社会に貢献できる人間（順法／協調性、誠実性、社会的能動性）、③心豊かな世界市民（多様性理解、共感的態度、柔軟性）、④問題解決能力を身につける（情報収集／発見力、企画力、思考／判断力）、⑤コミュニケーション

* 関西国際大学教育学部

ン能力を身に付ける（プレゼンテーション／表現力，リーダーシップ／メンバーシップ，話す・聴く力／意見交換力），の 5 つの大項目とそれらを達成するために求められる具体的な能力を明示し²⁾，ジェネリックスキル³⁾の獲得に向けた取り組みを進めてきた。

1990年代のアメリカの教育改革を背景に開発⁴⁾されたサービスラーニングは，学力向上と市民性の涵養に有効な教育手法であり，体験と知を有機的に結びつけていくことで学生を能動的な学習者として立ち上げることができるとされている。従来のアカデミックスキルにあわせ，ジェネリックスキルを含んだ幅広い力を大学教育の中で身に付けさせていくためには，伝統的な教授法だけではなくこれらサービスラーニングの手法もあわせて取り入れることが有効な処方箋の一つであると考えられる。

そこで本稿では，本学で実施している海外サービスラーニングプログラムの事例から，プログラムと学生の振り返り記録をもとに得られる教育効果，とりわけジェネリックスキルの獲得と課題について考察することを目的とする。

2. 研究方法

2009年度の夏学期に開講された，海外サービスラーニング（カンボジア）の事例をもとにプログラムを分析する。事前活動から事後活動までのプログラムと学生による振り返り，とりわけ事後振り返り記録の内容を本学のベンチマークの枠組みに整理することで，ジェネリックスキルの獲得とプログラムの関連性について明らかにしていく。

3. 研究結果

（1）プログラムの概要

プログラムは全学科⁵⁾共通の科目であり，「特別研究Ⅱ（海外サービスラーニング・カンボジア）」として 2 単位の科目設定を行った。履修生は 2 年生以上を対象とした。これは，全学共通で実施している「初年次サービスラーニング」⁶⁾の上位プログラムとして位置付けているためである。活動内容は，「カンボジアの貧困層における低学力の児童を支援するため，補習・教材の支援を実施する。」事とし，具体的には，①実践では市販の九九カードや計算ドリルを活用することで効果的な学習を支援していく，②使用教材を活動した小学校に寄贈するため，事前活動として教材購入資金の確保に向けた募金活動にも取り組んでいくとした。

なお，活動地域の選定及びコミュニティパートナーとの活動内容に関する打合わせは，事前にプログラム担当教員と本学サービスラーニング室コーディネータが渡航し準備を進めておいた。

実際の受講生は，教育福祉学科 6 名（4 年生 1 名，3 年生 1 名，2 年生 4 名），人間心理学科 1 名（3 年生），ビジネス行動学科 2 名（3 年生）の計 9 名である。なお 9 名の内，7 名が教員資格の取得を目指している。

（2）実践内容

学習目標は，「カンボジアの地域の課題（生活ニーズ）を発見し，グループで協力して解決する能力を身に付ける。」とした。あわせて，KUIS 学習ベンチマーク（表 1）の中から，獲得を

(表1) KUIS 学習ベンチマークの構成

大項目	中項目
自律できる人間になる	<u>知的的好奇心</u> 自己責任感 自律性
社会に貢献できる人間	順法／協調性 誠実性 社会的能動性
心豊かな世界市民	<u>多様性理解</u> 共感的態度 柔軟性
問題解決能力を身につける	<u>情報収集／発見力</u> 企画力 <u>思考／判断力</u>
コミュニケーション能力を身につける	プレゼンテーション／表現力 リーダーシップ／メンバーシップ 話す・聴く力／意見交換力

* 下線箇所は特別研究Ⅱ(海外サービslラーニング・カンボジア)で設定した KUIS 学習ベンチマークの項目。

* 内容については本学ホームページを参照されたい。

<http://www.kuins.ac.jp/kuinsHP/about/target/benchmark.html>

(表2) 特別研究Ⅱ(海外サービslラーニング・カンボジア)で設定した KUIS 学習ベンチマーク

大項目	中項目	内容
心豊かな世界市民	多様性理解	サービslラーニング活動を通じて、カンボジアの地域特性に起因する課題を見出し、貧困家庭の子どもが抱える問題やその背景を理解することができる。さらに先進国(日本)の役割と自身の具体的な貢献活動の意義について学びを深めることができる。
問題解決能力を身につける	情報収集／発見力	サービslラーニング活動に求められる事前学習・活動を行い、現地ではグループや地域の人々と協力して活動の問題点を発見し、分析することができる。
	思考／判断力	現地で発見した問題点や課題をグループで検討し、地域にとって効果的なサービsl活動になるような改善策を提案・実行することができる。
自律できる人間になる	知的的好奇心	専門科目の学びを踏まえて、カンボジアにおけるサービslラーニング活動に求められる新たな知識や技能の獲得に意欲的に取り組むことができる。

目指すジェネリックスキルについて、①多様性理解、②情報収集／発見力、③思考／判断力、④知的的好奇心、の4点取り上げ、プログラムに則して具体的な内容を提示した(表2)。

これら学習目標とジェネリックスキルの獲得に向けて、具体的活動を「事前活動・学習」「期中活動」「事後活動」の3つに構成した。

事前活動・学習では、1コマ90分の授業を一日3コマ、計15回の授業を実施し、活動地域やミッションへの理解を深めるとともに、目的意識の共有や動機付けの強化を図るための取り組みを行った。とりわけ、活動地域におけるプログラム立案や現地小学校における2週間分の指導案、授業計画と教材の作成、カンボジア人交換留学生によるクメール語の習得、及び現地活動に必要な資金調達を目的とした募金活動に関しては、学生が主体的にスケジュールを定め、役割を分担し、取り組みを進めていった。

事前活動・学習の内容

- 外部講師によるワークショップ(発展途上国における貢献活動の意義について)
- プログラムの構成理解、活動地域やミッションの理解、活動目的の確認
- クメール(カンボジア)語の習得

- 活動地域のプログラムの立案
- 指導案、授業計画及び教材の作成
- 模擬授業
- 活動資金調達のための募金活動
- 事前学習教材：工藤律子著（2008）「子どもたちに寄り添う・カンボジアー薬物・HIV・人身売買との闘い」，JULA 出版
- 事前活動の振り返り

期中活動は、8月7日から25日までの期間実施した。

活動内容は、活動地域の貧困層の子どもたちを対象に、算数教育（九九の指導）、給食支援、清掃活動を行うというものである。現地小学校の協力の下、夏休み期間中の小学校の教室を開放し、学力別の2クラス（子ども15名）を開講した。2週間の活動期間中に、プログラムに参加する子ども全員の成績を150%向上させることを目標とし、各々のクラスを担当する2つのグループで日々の実践に取り組んだ。

期中活動の内容

- 算数教育（九九の指導）
- 授業計画や教材の工夫・改善
- グループ遊びのプログラム立案
- 給食
- 小学校・寺院の清掃
- 期中活動の振り返り

期中活動のスケジュール

ホテル発 (移動)	(給食用食材調達日)	授業開始	休憩	グループ遊び	授業終了	教室等清掃	(給食)	寺院清掃	地域活動終了 (移動)	ホテル着	振り返り	活動終了
08:00(07:00)	09:00				11:00	(11:30~13:00)	11:50	12:20	14:00	15:00	17:00	

事後活動では、一連の活動に関する総括と考察、今後の課題抽出に取り組んだ。学内外に向けた活動報告のための資料編纂や実際の報告会への参加、あわせて成果物の作成を行った。

事後活動の内容

- 事後振り返り
- 学内⁷⁾・学外⁸⁾⁹⁾報告会への参加
- あじあん祭¹⁰⁾での展示・出店
- 活動報告集の作成

(3) 意図的な振り返りの実施

サービslラーニングにおけるプログラム展開で必要とされるのが振り返りである。振り返りはサービslラーニングプログラムの最も重要な構成要素とされており、これを系統的に用いていくことが肝要とされている¹¹⁾。

本事例においても、事前、期中、事後の三つに構成し、振り返りシートを用いて、個別・グループで意図的な振り返りを実施した(表3)。

(表3) 特別研究Ⅱ(海外サービslラーニング・カンボジア)の振り返り一覽

	様式No.	様式名称	項 目	個人	グループ	備 考
事前	1	事前の振り返り①	活動地域や対象に関する理解	○		
	2	事前の振り返り②	ミッションへの理解	○		
	3	事前活動のふりかえり(グループ)	上記2点に関するカンファレンス		○	グループカンファレンスはバンコク
期中	4	日々の活動のふりかえり	日々のふりかえり	○		ふりかえりシートの記入は毎日
	5	現地小学校における活動の日々のふりかえり	授業展開に関するふりかえり		○	授業実施時に毎回
	6	現地小学校における活動の中間ふりかえり(グループ)	現地活動に関するカンファレンス		○	8/14にグループカンファレンス
	7	現地小学校における活動の最終ふりかえり(グループ)	現地活動に関するカンファレンス		○	8/24にグループカンファレンス
	8	活動先の評価(プレッコンプ小学校・校長)	地域の評価	○		小学校長への聞き取り
事後	9	事後振り返り		○		

事前活動の振り返りは、「活動地域や対象に関する理解」と「活動に対する動機付けの確認と強化」を目的として行った。

個人では、事前学習教材から得られた活動先となる国や地域、人々が抱える課題やそれら社会的背景、影響等の学びを、実際の活動にどう結びつけていくのかといった項目を設定した(事前の振り返り①：様式1)。あわせて、事前活動全体を通した振り返りとして、活動に向けたレディネスの点検、活動の必要性や使命の確認、大学における学び(教科や初年次サービslラーニング)をどのように活動に結びつけていくのかについての問い掛けを行った(事前の振り返り②：様式2)。

グループでは、上記の個人の振り返りを共有した上で、グループにおける自分の役割の確認、事前活動に対するグループの取り組み姿勢や期中活動への展望と課題について確認を行った(事前活動の振り返り・グループ：様式3)。

期中活動の振り返りは2週間の現地活動期間中、毎日2時間程度実施した。

個人では、一日の活動を終えた自己に感情レベルで向き合わせた。さらに活動に対する行動の客観化とそれら行動の意味や影響を考察させ、次に何ができるのかという項目を設定した(日々の活動の振り返り：様式4)。

グループでは、活動の結果と課題及び具体的改善策を検討させた。重層的なPDCAサイクル

の必要性を理解させるために、日々の活動の振り返り（現地小学校における日々の振り返り・グループ：様式 5）にあわせて、活動開始から 1 週間後に設定した中間振り返り（現地小学校における中間振り返り・グループ：様式 6）、活動に対する自己評価とまとめの観点を含んだ最終の振り返り（現地小学校における最終振り返り・グループ：様式 7）に取り組ませた。

事後の振り返りは帰国後に実施している。事前・期中活動を通した学びにあわせて、大学の教科や初年次サービラーニングとの関連を考察させることで、今後の学習の必要性に気付けるような内容とした。これらを個人で取り組ませた後、グループで共有させた（事後振り返り：様式 9）。

4. 結果と考察

これらプログラムと振り返りを通して得られた教育効果、とりわけジェネリックスキルの獲得について、事後振り返りの記録をもとに検証を行った。

事後振り返り記録の内、「活動を通して学んだこと（自由記述）」に記述された内容を、KUIS 学習ベンチマークの枠組みを用いて整理した。複数の記述があるものについては個別に計上した。

分類の結果、心豊かな世界市民－多様性理解（5）、問題解決能力を身につける－情報収集／発見力（4）・思考／判断力（3）、自律できる人間になる－知的好奇心（1）、その他－自律性（1）・柔軟性（1）となった（表 4）。前述したように、KUIS 学習ベンチマークは全体で 5 つの大項目と 15 の中項目で構成されている。本プログラムではその中から中項目 4 つを取り上げ獲得目標としたものであるが、結果からは、ほとんどの記述がプログラムで設定した 4 つの KUIS 学習ベンチマークに該当していることがわかる。このことから、意図したジェネリックスキルの獲得と一連のプログラム活動に関連性を見出すことができる。次に学生の記述からどのような学びが獲得できているのかを見ていく。

（表 4）KUIS 学習ベンチマークに基づいた記録の分類

大項目	中項目	記録数
心豊かな世界市民	多様性理解	5
問題解決能力を身につける	情報収集／発見力 思考／判断力	4 3
自律できる人間になる	知的好奇心	1
その他	自律性 柔軟性	1 1

（1）「問題解決能力を身につける」に関する記述

大項目別に見ると、問題解決能力を身につけるという項目に該当する記述をした学生が多かった。

問題解決能力を身につける－情報収集／発見力・思考／判断力に該当する記述①

「日本では当たり前になっているゴミ問題、障害者の教育が不十分であることを知り、経済的に厳しい国の…。」

清掃活動は当初のプログラムには無かったものである。しかし、現地における活動を通して校庭や教室、周囲の環境にゴミが非常に多いことに気付き、衛生的な環境づくりを教育の一環とし

て位置付ける事となった。実際にも教育実践として、子ども達を巻き込む形で清掃活動を実施している。また、事前活動では十分に把握できなかった障害児教育のあり方に関する記述も見られる。活動先の小学校に障害児が見られないことに気付き、経済的背景による教育上の問題点として指摘できるようになっている。

問題解決能力を身につける－情報収集／発見力・思考／判断力に該当する記述②

「…今回のプログラムで、算数教育や清掃活動、ルールや子どもの視点に立つことの大切さを子ども達だけではなく、先生達にも伝えることができた。このことがメンバー全員の大きな学び、成果である。」

「教育活動の難しさ。授業展開の考え方一つで生徒達の興味や集中が違う事を実感した。」

地域にとって効果的な貢献活動を展開するために、毎日の振り返りを通して問題解決していくことで学びが深まっている様子が伺える。事前に準備をしてきた教材や授業計画ではあるが、実際の活動では「うまくいかない」ことが少なからずある。記述からは、それら原因と課題を整理しグループで解決していくことの意義や成果を見出していることがわかる。また、自分たちの関わりが、授業に参加した子ども達だけではなく、現地の教員にも広がることの可能性と必要性について気付くことができている。

（２）「多様性理解」に関する記述

次に多く見られたのは、多様性理解に関する記述である。

心豊かな世界市民－多様性理解に該当する記述

「カンボジアの教育現場の実際、現地の先生の思いや、教育環境を實際目で見て知ることができた。」

「どんな子どもでも夢を持っていること。また子どもたちが持つ夢には環境が大きく影響していることがわかった。」

「…日本の生活がどれだけ便利で裕福かを改めて知ることができた。それなのにカンボジアの人々はみんな明るく勉強も仕事もとても楽しそうにしていた…」

活動を通して地域の特性や問題の背景への理解を深めている。児童労働や勉強に全くついていけなくなることで不登校になる子どもへの関わり方に課題を見出しつつ、先生が子ども達に向けた思いは同じであること。子ども達の語る夢が、生育環境や経済状況によって影響を受けていること。さらに、日本で生活する自分自身を対比することで、物質的な豊かさと幸福は直接的には関連しないことに気付いている。

（３）「自律できる人間になる」に関する記述

自律できる人間になるという項目に該当する記述をした学生は１名だけであったが、KUIS学習ベンチマークで設定した内容（専門科目の学びを踏まえて、カンボジアにおけるサービスラーニング活動に求められる新たな知識や技能の獲得に意欲的に取り組むことができる。）を踏まえるならば、振り返りを含んだ日々の実践活動そのものが、これらの獲得を体現しているものと考えられる。貢献活動の目標を達成するために、子ども達の意欲を高め、習熟度にあわせた授業展開をするために、アイデアや工夫が日々の振り返りの中で数多く提案されていた。大学で学んだ

教授法を取り入れ、集中力が途切れないう適切に休憩時間を設けるだけではなく、グループ遊びやアクティブラーニングの要素をプログラムに交える等の包括的な教育実践に、学生が主体的且つ意欲的に取り組んでいた。

5. 成果と課題

本プログラムの構成や内容が、ジェネリックスキルの獲得に向けた取り組みとして、効果的な内容を含んでいるということが明らかになった。具体的な活動内容の提示や、貢献活動に対する明確な達成基準の共有化、プログラムの各段階に位置付けた構造的且つ重層的な振り返りの仕組み、あわせて、実践活動を言語や文化、経済状況や社会的背景の異なる海外で展開したことによる成果であることが学生の記述からも推察できる。

貢献活動が単なる自分たちの思い出づくりとならないよう、事前活動・学習を通して、授業に参加した子ども全員の成績を150%以上向上させるという目標を共有化した。この目標を達成するために、学生は授業に参加する子ども達を成績別に2クラスに分け、各々担当するグループが責任を持って主体的にそのクラスに見合った授業構成と展開を行った。授業中の子どもの様子を細やかに観察することで、その子どもが意欲的に学べる教材を開発し指導方法を改善していった。中間テストによって効果を測定し、最終テストに向けた計画を練り直すことで、結果的にすべての子ども達の成績が150%の向上を見ている。これらPDCAサイクルを強く意識させる構造や内容により、本プログラムが問題解決指向の強い性格を有していることがわかる。

以上のように、ジェネリックスキルを高めるためには効果的なプログラムではあるが一方で課題も指摘できる。

一点目は貢献活動と学びの深さである。問題解決指向の強いプログラムの持つデメリットでもあるが、問題を解決することに傾注することで、貢献活動によって得られる効果は具体的且つ堅実なものであるが、一方で現場から得られる学びや失敗を前提としたチャレンジといったダイナミックな学びのメカニズムに乏しい。目標が達成できないことが貢献活動の失敗を意味するものとして、学生に認識させてしまうような構造であったことも否めない。貢献活動と学びのバランスに配慮したプログラムづくりが必要であろう。

二点目は海外プログラムであることの問題である。プログラムからは、貢献活動に対する一定の成果を見ることはできたが、継続性という観点からはさらなる工夫が求められる。海外プログラムでは、地理的要因や経済的制約から度々活動地域を訪問することは難しい。学生にとっては達成感のあるプログラムであったとしても、効果が見られるのは学生が活動した時に限られ、それが地域住民にとって年に一度のイベントとしてとらえられるのであれば、真なる貢献活動には値しないだろう。今回の活動でも現地小学校の先生が学生の授業に関心を示したり、子どもの保護者が給食づくりに参加したりと地域住民のプログラム参画の兆しは見られたが、今後は地域住民と協働していくことを意識した仕組みづくりが求められるだろう。

三点目は体験と大学の学びの体系化である。このプログラムは全学科共通で2年生以上を対象としている。2年間とは言え学生が習得してきたアカデミックスキルは各々の学科のカリキュラムによって異なり、上級学年ではなおさらである。それら学びの蓄積をサービラーニングのプログラムにどう接続し、体験を通して高め、さらなる学びの発展に向けてどのように結びつけて

いくのかについての検討が必要である。プログラムからは、アカデミックスキルとの関連や深化が見えにくい。今後は大学における専門科目との関連性やジェネリックスキル獲得に向けた取り組みとの相互作用を視野に入れたプログラムを構成していく必要があると考えられる。これら三点の課題を、大学教育におけるサービラーニングプログラムの発展の可能性として指摘しておきたい。

- 1) 関西国際大学は、世界的視野にたち人間愛にあふれ、創造性豊かで、行動力のある人間の育成をめざす知性あふれる学問の場である。
 - ①自律できる人間であろう…自己に厳しく、たえず努力し続ける人間になろう。
 - ②社会に貢献できる人間であろう…自ら創造し、積極的に行動する人間になろう。
 - ③心豊かな世界市民であろう…世界の人々と共に生き、互いを高めうる人間になろう。
- 2) KUIS 学習ベンチマーク <http://www.kuins.ac.jp/kuinsHP/about/target/benchmark.html>
- 3) ジェネリックスキルについては、吉原恵子（2007）「大学教育とジェネリックスキルの獲得－ジェネリックスキルをめぐる各国の動向と課題－」兵庫大学論集第12号に詳しい。
- 4) 倉本哲男（2008）「アメリカにおけるカリキュラムマネジメントの研究－サービラーニング（Service-Learning）の視点から」ふくろう出版，128
- 5) 教育学部（教育福祉学科・英語教育学科）人間科学部（人間心理学科・ビジネス行動学科）
- 6) <http://www.kuins.ac.jp/kuinsHP/extension/gp-sl/index.html>
- 7) 関西国際大学尼崎キャンパス及び三木キャンパスで実施
- 8) 平成21年度教育 GP 公開フォーラムパネル発表（平成21年9月18日：関西国際大学）
- 9) 三大学合同報告会（平成21年11月1日：大阪国際大学）カンボジアを活動地域とする近隣大学（関西国際大学・大阪大谷大学・大阪国際大学）の合同報告会
- 10) 関西国際大学学園祭（平成21年11月14・15日）
- 11) 前掲書3，131